

J.S.V.R.

ニュースレター

No.25

2018. 11

発行人 日本バレーボール学会
会長 河合 学
発行日 2018年11月1日
事務局
〒422-8581 静岡市駿河区弥生町6-1
常葉大学静岡草薙キャンパス 高根研究室
Tel&Fax 054-297-6264
E-mail:jsvr.office@gmail.com
<http://www.jsvr.org/>

日本バレーボール学会

The Japanese Society of Volleyball Research



巻頭言



日本バレーボール学会
副会長 古澤 久雄

地球環境受難の世紀ともいわれ、自然災害が各所を襲う事態が急増しています。防災のための環境整備や危機管理が喫緊の課題になっています。また、身近なスポーツ・シーンでも熱中症対策などの手厚い安全配慮が日常的に必要不可欠です。

また、残念なことに様々な競技団体の不祥事が明るみに出ています。スポーツ界に蔓延する各種ハラスメントやガバナンス喪失は、フェアプレー精神を内部から崩しスポーツの存在意義まで失いかねません。このような危機的状況を打開するための組織論的な論議も大切な課題です。

2018年はFIVB ネイションズリーグや世界選手権、OCA アジア大会などのビッグイベントが開催され、龍神ニッポン・火の鳥ニッポンの動向に一喜一憂させられた年でした。我が国スポーツ界に長年にわたって充満する異様なまでの「高さ」コンプレックスや、自殺行為的な「速さ」神話の病魔に辟易しました。

これらの難病治療のために、エビデンスに基づいて丁寧な分析し理論化する動きが近年広がりつつあり、これらの研究成果を応用し実践的に克服する努力の蓄積が期待されます。育成・強化の現場と私たちスポーツを科学する仲間たちとの更なる協同の輪を広げたいものです。

組織名称を変更した日本スポーツ協会 JSA は、「楽しい、面白い」をスポーツの中核的価値と定義しました。国民体育大会の改革が進行中ですが、ビーチバレーボール競技の種別変更の効果は高体連との連携による地道な普及策の成否が鍵を握りそうです。

新Vリーグもスタートしました。JVAの宿願であるプロ化への一里塚となるのか注目されます。国内トップリーグの改革が「文化としてのバレーボール」の発展に寄与するよう、Vリーグ機構と加盟チーム、自治体の大胆かつ周到な取り組みが楽しみです。

東京オリンピック・パラリンピックを機に、競技種目のデパート化した我が国でのサバイバル競争激化が予想される中、バレーボールの価値、魅力、醍醐味を高めるための野心的な事業展開が試され、それらを裏付ける実証的な調査研究が望まれます。

JSVRは間もなく創立30周年を迎えます。グローバルな視野に立った研究交流として、学術連合が開催準備を進めているICSEMIS(2020横浜スポーツ学術会議)への積極的な取り組みを展開し、特に若手

会員諸氏の挑戦を促したいと思います。そして国連が推進する SDGs への貢献にも繋がる草の根バレーボールクラブの運営に、多くのボランティア活動家たちがサポートを続けています。ここにもスポットライトを当てる時機到来です。

次回 JSVR 大会は 2019 年 3 月に山梨学院大学で「これからの課外活動におけるコーチングを考える」というテーマ設定で開催されます。世界でも稀な存在である「部活動」というプラットフォームをめぐる功罪と将来像について、討論を深める機会になると思います。国民スポーツの観点からも、幅広い視点から情報交換がなされることを期待しています。